

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

がんと闘う

外来化学療法室を
14床に増床し
リニューアル

草加市立病院 病院長 高元俊彦



写真パネルが設置された1階エントランスホール

病院ボランティアを 募集しています

1階エントランスホールで外来患者さんのお手伝いをするボランティアを募集しています。活動内容は主に受付や会計のお手伝い、各診療科や検査室への案内、車いすの介助など。週1回2時間半、1年以上活動できる方対象。
問 ボランティアルーム ☎ 946・2200



新しい外来化学療法室は4月から利用開始

がん対策推進 基本計画

この基本計画は、平成18年に施行されたがん対策基本法に基づき政府が策定したものです。がん医療への総合的推進を図るための方向性を示しています。その趣旨は「がんを知り、がんに向き合い、がんを負けることのない社会」を目指すこととされる計画で、具体的には、①放射線療法、化学療法、手術療法の一層の充実と専門医療従事者の育成、②がん診断されたときからの緩和ケアの推進（全人的患者支援）、③新規発症のがん登録、④働く現役世代や小児へのがん対策に重点的に取り組むことが求められています。

がん拠点病院 に向けて

草加市におけるがん患者は年々増加傾向にあり、市立病院で昨年登録された新規発症のがん患者は1000名を超えるまでに達しました。それにつれて、これまで都心の病院に通院されていた方々も、次第に地元の病院への回帰が始まっています。これから市立病院はこれまで対応してきた領域に加えて、さらに肺がん、食道がん、肝臓がん、頭頸部がんと広げていき、緩和ケアまでの先端的総合的治療を提供する拠点病院として整備して行く計画です。

エントランスホールと 外来化学療法室に 癒しの空間を

がんとの闘いは決して絶望ではありません。がんを克服しあえるいは共生しながら人生を有意義に生きるサポートをご本人とご家族に行っていきたいと思っています。しかしながら公立病院では効率化を求めるあまり、療養環境はとて無機的で、人の温もりを感じないところもありました。病気になるって初めて

患者さんに癒しと安らぎを

1階エントランスホールに写真家の高橋福生さんの作品が写真パネルとなって設置されています（紙面上写真）。妙高高原の樹木とそれらを映す水面が調和した幻想的な風景で、高橋さんは「水をテーマにした世界は癒しを与えてくれますし、生命の輝きそのものですね。患者さんだけでなく、市民の方にも癒しと安らぎを与える空間であり続けてほしいです」と話しています。



高橋福生さん
とみお

味わう心細さや不安、これを跳ね除ける療養環境をと思い、写真家の高橋福生さんの協力を得て、エントランスホール、外来化学療法室（14床に増床）に生命力あふれる空間を実現しました。多くの方々がこの優しいメッセージを受け取っていただけたらと思います。